

創造アイデアロボットコンテスト大阪市中学生大会 大阪独自 自律制御「相撲」部門ルール（素案）

1. ルール

- ①規定時間内に自律型ロボットで相手ロボットを土俵（コート、以降土俵）から押し出す競技である
- ②基本的な決まり手は「寄り切り」「押し出し」である
- ③行司（主審、以降行司）の指示でロボットをセットするが、行司の「確認」以降に向きなどを変えてはいけない
- ④行司の「よーい、はっけよい」でロボットのスタートボタンを押す【計測スタート】
- ⑤スタート後、3秒間ロボットを静止させる（選手が離れる時間を確保する。選手は土俵から1m以上離れる）
- ⑥ロボットがスタートしたことを行司が安易に認識できるように「LED」などを点灯させる
- ⑦ロボットをスタートさせてから勝負がつくまで、選手はロボットに触れてはいけない

【確認事項】

- ①ロボットが土俵上から外れても土俵外の床面に接触しない限り競技は続行する（空中セーフ）
- ②故意に相手ロボットを破壊する行為は反則であるが、「突っ張り」等の相撲の技は使ってもよい
- ③簡単に破壊されるようなロボットではない。土俵外に落ちてても破損してはいけない（反則ではない）
- ④軽度の破損は反則ではない（破損の度合いは行司の判断とする）
- ⑤取り組み（試合、以降取り組み）は事前のくじ引きで決定する
- ⑥設定時間は大会の運営状況によって決定する
- ⑦行司以外に副審（副審判員兼ビデオ記録係、以降副審）を1名置く
- ⑧微妙な判定の場合は、行司と副審でビデオ判定を行い、合議のもと判断する
- ⑨同体となった場合は「取り直し」とする
- ⑩故意に相手ロボットのセンサーを誤反応させるような行為は反則とする（改善されない場合は失格とする）
- ⑪チームは、取り組みが始まる前にセンサーやモータの役割、プログラムを行司と副審に説明する必要がある
- ⑫対戦相手のロボットに不審な点がある場合は、選手が行司に申し立てをすることができる
- ⑬行司は申し立てを受けたとき、正当と思われる場合において相手チームに説明を求めることができる
- ⑭毎回、取り組み前に大きさ・重量の計測を行う

2. 競技の判定

- ①ロボットの一部が土俵外の床面に接触した場合に負けとなる
- ②相手ロボットに接触しなくても、先に土俵外の床面に接触した場合も負けとなる（「勇み足」）
- ③判定は行司が行う
- ④規定時間内に勝敗がつかない場合は、1分間の再取り組みを行う
- ⑤それでも勝敗がつかない場合は、じゃんけんの3回勝負とし先に3勝したチームを勝者とする

3. ロボットの規格

- ①自律型であること。メーカーは問わない。自作でもよい
- ②スタート前は200 (W) × 200 (D) × 200 (H) mmの大きさに収まること
- ③スタート後は展開して大きくなってよい
- ④センサーの種類や数、モータの種類や数などの制限はない
- ⑤電池は市販の乾電池や充電電池とし、大きさは単電池の大きさを標準とする。数は問わない
- ⑥重量は1500g以内とする

4. 土俵（コート）の規格（別図参照）

- ①コンパネ（t15）を直径900の円形にする
- ②表面をつや消しの白に塗装する
- ③周囲から内側に50の幅につや消しの黒を塗装する（俵）
- ④仕切り線は設けない
- ⑤土俵の裏面は板材（t19）5枚によって保持される

5. 競技に必要なもの

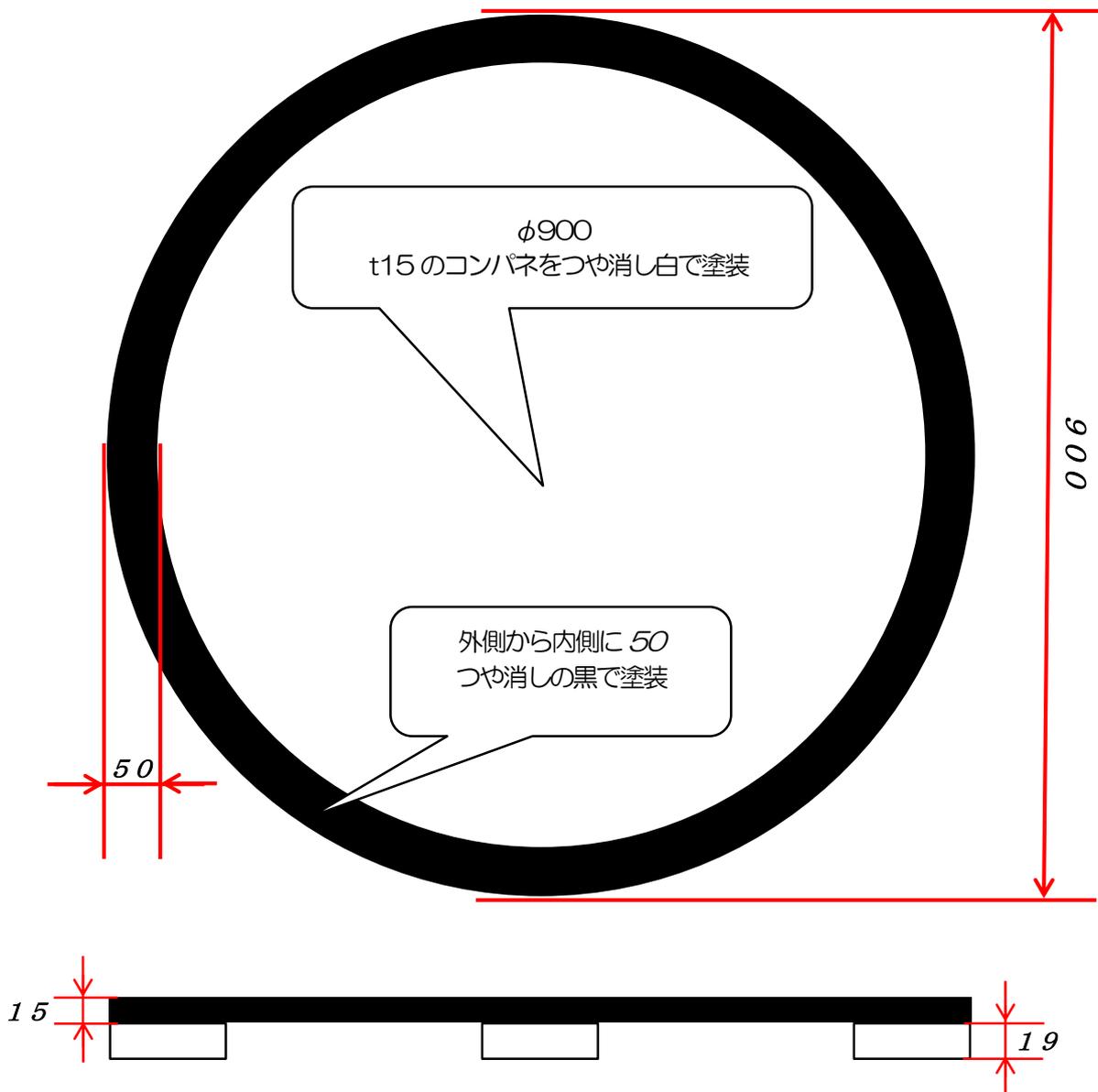
- ①土俵=コンパネ (t15 直径900) 1枚
- ②塗料 (つや消し白・つや消し黒)
- ③土俵の裏面に取り付ける板材 (t19) 1×4などの端材 (89×89) 5枚
- ④コート裏面の中央と周囲90度ずつで、コートからはみ出さないよう4箇所に木工ボンドで接着する

6. チーム構成

- ①1チーム2名以内とする
- ②選手1名、アシスタント1名とする
- ③競技中、ロボットに触れることができるのは選手のみとする
- ④アシスタントは、調整時 (競技中以外) は選手と協力して作業しても構わない

7. 土俵 (コート)

- ・スタート位置は自由。相手チームが了承すれば、どこからスタートしてもよい



※ご質問・お問い合わせは、大阪ロボコン事務局掲示板 <http://osaka-jh.com/joyful-robo/joyful.cgi> までお願いします。